

## アフリカ科学技術調査ミッション 概要報告

平成21年4月27日  
内閣府

1. 期間:平成21年2月18日(水)～3月8日(日)
2. 訪問国:エチオピア(AU本部)、南アフリカ、ボツワナ、ケニア、ウガンダ、エジプト、ガーナ (7カ国)
3. 概要

(1) アフリカ連合(AU)科学技術部局との意見交換

① Hakim Elwaer AU 人的資源・科学技術局長との会合(2月19日)

AU本部のElwaer 人的資源・科学技術局長を訪問し、今後の日アフリカ協力の進め方について意見交換を行った。第2回日アフリカ科学技術大臣会合の開催地については、開催時期等で引き続きアフリカ内の調整が必要であるとのことであり、3月末までに調整を行うことで合意した。また、大臣会合の間に行われるテクニカル・ワーキング・グループ(TWG)について、意見交換を行った。

② Jean-Pierre Ezin AU 人的資源・科学技術担当委員への表敬(2月20日)

AUのエザン人的資源・科学技術担当委員を表敬し、今後の日アフリカ協力のあり方及びAUが推進する汎アフリカ大学構想について、意見交換を行った。



科学技術部局との意見交換



エザン委員表敬

(2) 南アフリカ

① SADC 地域セミナー(2月23日)

南アフリカ、ボツワナ、マラウイ等9カ国の科学技術担当省関係者及び NEPAD 事務局が参加して SADC 地域セミナーを開催した。まず、SADC より、SADC のミッション、活動内容、戦略計画、今後日本と協力が期待される分野等について説明。次に、NEPAD 事務局より、CPA に関する取組についての紹介が行われた。また、既存の二国間協力及び日アフリカ協力に加えて、SADC 等の地域協力の枠組みを対象とした協力の重要性が指摘された。日本側からは、日本の科学技術政策や国際協力の枠組みや、各研究機関の国際協力活動について説明し、最後に、SADC と日本政府が今後も双方の持続的発展に向けて協力することを確認した。

② 研究機関訪問(2月24日)

研究者の専門分野に応じ、産業・資源、環境、バイオ・天文、医療、農水の5班に別れ、それぞれ個別に南アフリカにおける主要な研究所を訪問。各研究機関の研究活動について説明を受け、また必要に応じ日本側からも研究機関の国際協力活動を紹介する等、研究機関への理解を深めた。

③ 第3回日・南ア科学技術合同委員会(2月25日)

宮下公使を共同議長に大使館関係者、各府省の担当者、研究開発機関関係者及びJICA

関係者が出席、南ア側からは、ハイデ科学技術省副次官を共同議長に科学技術省関係者、外務省関係者、NRF関係者が出席した。同科学技術合同委員会では、両国の最近の科学技術政策を説明した後に、両国のこれまでの協力関係をレビューし、今後の協力関係を一層強化するための方策について協議した。



SADC 地域セミナー



農業研究協議会視察

### (3) ボツワナ

#### ① ボツワナセミナー(2月24日)

ボツワナ通信科学技術省の主催によりセミナーを開催し、科学技術政策及びイノベーション・ハブ構想に関する意見交換を行った。日本側からは、我が国における地域イノベーション及び産官学連携策等の施策の紹介を行うとともに、通信・宇宙・ナノ・エネルギー・感染症対策等に関する取り組みを紹介し、ボツワナ側からは、イノベーション・ハブ構想及びボツワナ科学技術大学構想が紹介された。



ボツワナセミナー



ボツワナ・リモートセンシングセンター視察

### (4) ケニア

#### ① ムウイリア高等教育科学技術省副大臣への表敬(2月27日)

キレミ・ムウイリア(Dr. Kilemi Mwiria)高等教育科学技術省副大臣への表敬訪問を行った(岩谷駐ケニア大使同席)。副大臣からは、ハードのみならず人材育成等ソフト面での協力の重要性、また、同席した AMCOST 運営委員会の議長である、Prof. Crisput M. Kiamba 次官より、特にケニアの農業、医療の主要研究機関に対する日本の支援への謝辞が述べられた。

#### ② 東アフリカ地域セミナー(2月27日)

ケニア、タンザニアの科学技術担当政府関係者及びケニアの主要研究機関の研究者、日本からのミッションメンバー、総勢約50名がセミナーに参加。まず、各国から科学技術政策や国際協力の枠組みを紹介し、日本から各研究機関の概要、国際協力活動について説明。続いてケニアの研究機関側から、各機関の概要及び今後日本と協力が期待される分野等の発表があった。アフリカ側からは、第2回日本アフリカ科学技術大臣会合の開催や、既存スキームの更なる活用、及び東アフリカ諸国と日本との今後の協力関係強化に向けた枠組み構築への期待が述べられた。

③ 研究機関訪問(3月1日)

ミッションメンバー全員でケニア農業研究所(Kenya Agricultural Research Institute: KARI)及びケニア中央医学研究所(Kenya Medical Research Institute: KEMRI)を訪問し、同機関における研究開発、人材の確保、諸外国との協力等の現状について聴取した。また、医療分野の研究者は個別でケニアトリパノソーマ研究所(Kenya Trypanosomiasis Research Institute: KETRI)を、また、エネルギー分野の研究者はケニア基準局(The Kenya Bureau of Standard: KEBS)を訪問した。



東アフリカ地域セミナー



KEMRI 視察

(5) ウガンダ

① ウガンダ宇宙関係機関との意見交換(2月25日)

ウガンダ宇宙利用関連機関とのミーティングを行い、今後の宇宙協力について意見交換を行った。日本からは宇宙事業の紹介及び宇宙利用に関する提案を行い、ウガンダの情報通信技術省等と今後の宇宙利用について意見交換を行った。

② ウガンダ保健省とのミーティング(2月25日)

宇宙利用に関する医療面でのニーズを把握。同分野での日本の国際協力事例を紹介し、上記ニーズに対して日本側からどのような協力が可能か、引き続き情報交換を継続することとなった。

(6) エジプト

① ヒラルル大臣表敬・政府関係者との意見交換(3月2日)

高等教育・科学技術省を訪問し、マギド局長他、科学技術省関係者との間で意見交換を行った。日本からはミッションの目的及び日本の科学技術政策、JST、JSPSよりアフリカとの協力枠組みを説明。エジプト側からも同様に科学技術政策についての説明や、EUとの協力などの現状、新たに設立されたファンディング機関であるSTDFについての紹介があり、今後の日・エジプトの科学技術協力の促進について意見交換を行った。その後、ヒラルル大臣の表敬を行った。

② 研究機関訪問(3月2日)

研究者の専門分野に応じ、エネルギー、水、天文、医療・バイオサイエンス、農業、原子力の6班に別れ、研究の現状の調査、将来の協力可能性について意見交換を行った。

③ 北アフリカ地域セミナー(3月3日)

アフリカ北部諸国の関係者及び日本からのミッション団、総勢約70名がセミナーに参加。日本側からは岩橋審議官及び石川エジプト大使、エジプト側からはヒラルル高等教育科学技術大臣より挨拶があった。その後内閣府、文科省及びJST、JSPSから我が国の科学技術に関する状況や、アフリカとの協力に関する枠組み等について紹介し、アフリカ側からはエジプト、アルジェリア、チュニジアより、各国の科学技術に関する最重要分野について説明があった。午後からは、各研究分野に分かれて、双方の研究者による各研究機関の国際協力に関する紹介や今後の協力について意見交換が行われた。





ヒラール大臣表敬



北アフリカ地域セミナー

(7) ガーナ

① 政府機関との意見交換・野口記念研究所視察(3月5日)

1979年に日本のODA技術協力プロジェクトにて設立された同研究所の各部門について所長より紹介を受けた後、施設の視察を行った。研究所の紹介では、研究のプライオリティや日本や英国、米国といった先進国との研究協力の状況が紹介された。また、この後、一部メンバーにて、ガーナ・アイテー環境・科学技術大臣の表敬訪問を行った。

② 西アフリカ地域セミナー(3月5日)

日本からはJST、JSPSから日本の科学技術政策やアフリカとの協力の枠組みを紹介した他、医療及び農業分野におけるアフリカとの協力の現状について説明を行った。先方からは、CSIRのサリフ局長と野口記念研究所のニャルコ教授より、ガーナの科学技術政策及び研究の現状の紹介があり、ガーナの研究機関関係者と今後の協力について意見交換を行った。



野口記念医学研究所視察



西アフリカ地域セミナー